

貿易収支の赤字から見る日本経済

経済調査部 大塚 崇広

赤字基調が続く貿易収支

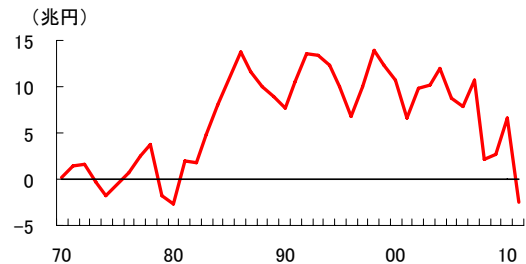
東日本大震災から1年が過ぎ、多くの経済指標では日本経済が概ね震災前の水準にまで回復したことが示されています。一方で、震災前の水準にまでなかなか戻らない経済指標に貿易収支があります。貿易収支は2011年の通関ベースで31年ぶりの赤字となりました(資料1)。サプライチェーンの寸断による輸出の減少など震災による一時的な要因もありましたが、震災の影響が薄らいだ昨年後半以降も赤字傾向が続いています。海外経済の減速などで輸出が伸び悩むなか、高止まりする資源価格や原発停止に伴う燃料輸入の増加が貿易赤字を拡大させています(資料2)。貿易収支は海外経済の持ち直しによる輸出の増加で今後は赤字幅の縮小が予想されますが、黒字に転じるには時間がかかるでしょう。

貿易赤字から見えること

一概に貿易収支の赤字が悪いことであるとは言えません。例えば、人々の幸福感は消費する財の量が多いほど増すと考えるならば、需要が旺盛なことから輸入が増加し貿易赤字となることは悪いことではないでしょう。しかし、日本の場合は“量”ではなく“価格”が輸入を押し上げています(資料3)。つまり、消費量を増やしたわけではなく価格の上昇により輸入金額が増えており、良い貿易赤字とは言えません。

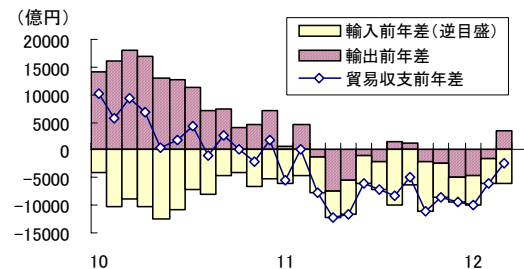
価格上昇の要因は原油などの資源価格の高騰です(資料4)。資源価格は世界的な金融緩和や新興国の成長で上昇しやすく、資源の多くを輸入に依存している日本経済にとって今後も大きな負担となりかねません。貿易赤字はいずれ解消するかもしれませんが、足元の貿易収支の赤字からは、資源価格の高騰に脆弱な日本経済の構造を垣間見ることができます。

資料1 貿易収支の推移



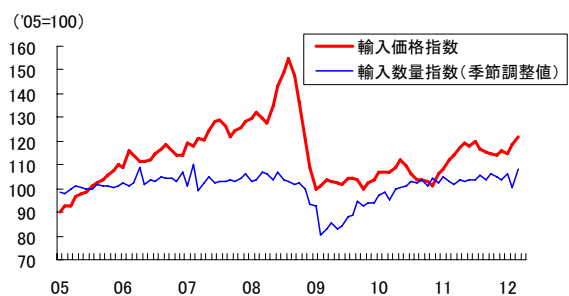
(出所) 財務省「貿易統計」

資料2 貿易収支(前年差)の要因分解



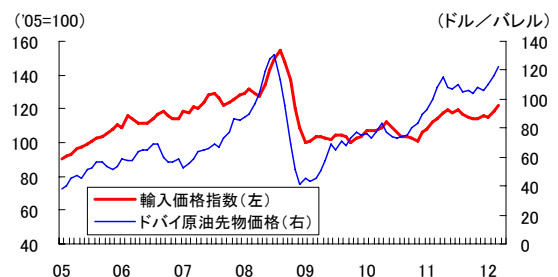
(出所) 財務省「貿易統計」

資料3 輸入数量指数(季節調整値)と輸入価格指数



(出所) 内閣府「輸入数量指数(季調値)」、財務省「貿易統計」

資料4 原油価格と輸入価格指数



(出所) 財務省「貿易統計」、Bloomberg